

平成27年度 発掘調査速報展

はじめに

発掘調査速報展は、弘前市教育委員会が平成9年度から毎年開催しているもので、今回が19回目となります。

今回紹介する遺跡は、平成27年度に実施した市内6遺跡7か所の発掘調査のうち、平安時代の竪穴建物跡が発見された村元遺跡や平安時代及び室町時代の溝跡が発見された油伝（2）遺跡、戦国時代に大浦為信（後の津軽為信）が拠点とした大浦城跡、縄文時代・江戸時代の散布地である新寺町遺跡、弘前藩が江戸時代に構築した高照神社馬場跡の計5遺跡5か所です。

近年、開発により多くの遺跡が失われていく中、個性豊かな地域の歴史的・文化的な環境を形づくる重要な遺産である史跡や遺跡を訪れる人は増加しており、史跡・遺跡の保護に対する関心も高まっています。

本速報展は、このような中で、市民のみならず市民にとって遺跡がより身近なものであり、また、先人が残した貴重な文化遺産でもあることを感じていただくと共に、遺跡の保護についてご理解とご協力が得られることを願い、開催しているものです。

平成28年3月現在で当市の遺跡数は454ヶ所を数えますが、まだまだ未発見の遺跡がたくさん存在するものと思われます。もし、皆さんの周りで土器や石器を発見したら、ぜひ文化財課までご連絡くださるよう、お願い申し上げます。

大浦城跡

所在地：大字五代字早稲田

主な時代：平安時代、戦国時代、江戸時代

調査期間：平成27年4月20日～5月27日

調査面積：36㎡

調査原因：個人住宅建設

説明：

大浦城跡は、弘前駅から北西約6kmに位置しています。津軽平野の西南縁、岩木山の東南麓にあたり、後長根川南岸の台地上に立地しています。

今年度は、本丸の南東側において、個人住宅建設に伴い、試掘調査を実施しました。

調査の結果、戦国時代の土壘跡や柱穴、土坑を検出しました。遺物は、戦国時代の終わり頃から江戸時代の陶磁器の他、縄文土器や土師器、石製の茶臼、瓦が出土しました。

このことから、本丸南東側には大浦城が機能していた当時の遺構（竪穴建物跡などの不動産のこと）等が良好に残存していることが判明しました。



作業風景

油伝（2）遺跡

所在地：大字時苗^{まかなえ}字油伝42ほか
主な時代：縄文時代、平安時代、室町時代
調査期間：平成27年5月26日～9月30日
調査面積：875㎡
調査原因：市道整備
説明：



油伝（2）遺跡は、弘前市街地の北西部、後長根川左岸の微高地上^{びこうちやう}に位置しています。市道独狐時苗線整備^{しどうとつらまひなえせんせいび}に伴い、平成24年度から発掘調査を実施しています。平成27年度の調査で発掘調査は終了しました。平成28年度に発掘調査報告書を刊行する予定です。

これまでの4カ年の調査の結果、縄文時代の溝跡^{みぞあと}3条、平安時代の竪穴建物跡^{たてあなたてものあと}33棟、土坑^{つちあな}127基、溝跡^{みぞあと}68条、多数の柱穴跡、平安時代以降の井戸跡^{いどあと}13基、室町時代以降の溝跡^{みぞあと}2条、戦国時代の竪穴建物跡^{たてあなたてものあと}1棟、が見つかりました。当遺跡は平安時代（10世紀頃、今から約1,000～1,100年前）を主体とする集落跡^{しゅうらくあと}（ムラの跡）であることが分かりました。

高照神社馬場跡

所在地：大字高照字獅子沢^{ししざわ}128-91
主な時代：江戸時代
調査期間：平成27年9月28日～10月31日
調査面積：316㎡
調査原因：市史跡指定^{ししせき}及び馬場跡整備^{ばいばつあとせいび}
説明：



高照神社馬場跡は、弘前市街地から西へ約9.5km、岩木山麓^{いわきさんろく}の南西部に位置しています。市の史跡指定及び馬場跡整備のため、試掘調査を実施しました。

当馬場は、文献によると文政13年（1830）に完成したとあります。「高照神社境内絵図」（弘前市立博物館蔵）によると、規模は東西80間（156m）、南北8間（15.6m）とあります。「御神馬御牽入^{おんしんめおんひきひき}」等の神事が執り行われたとされています。全国的にも馬場跡自体が残っているところは稀であり、当馬場跡は貴重です。

調査の結果、規模は絵図の通り、東西約156m、南北約15.6mを測ります。馬場の造成土中から陶磁器が1点出土しました。19世紀前半頃の肥前系染付碗^{ひぜんけいぞめつけわん}であり、文献の通り、馬場はその頃に構築されたと考えられます。

【展示に関する問い合わせ先】

弘前市教育委員会 文化財課埋蔵文化財係（岩木庁舎3階）

〒036-1393 弘前市大字賀田一丁目1-1 TEL 0172-82-1642（直通） 内線 768・652